

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第24週[6月13日~6月19日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

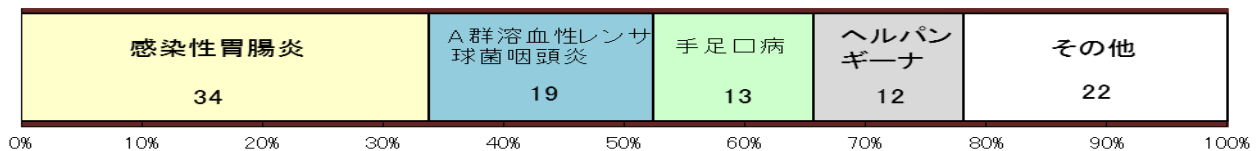
県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ・ 週の始めは晴れたが、その後は再び曇りや雨となった。
- ・ **感染性胃腸炎**は幡多を除く地域で減少し、総数は前週の約7割に減少した。
- ・ **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（高幡：注意報→注意報，高知市：注意報→注意報）**は総数はほぼ横ばいで、引き続き注意報値を超している。例年通りであれば、今後は減少傾向に転じると思われる。
- ・ **手足口病**は中央東，幡多，中央西で増加し、総数は約1.3倍に増加した。
- ・ **ヘルパンギーナ（中央西：警報）**は総数は前週の約1.6倍に増加した。
- ・ **マイコプラズマ肺炎（高知市：注意報→注意報）**は総数としては目立った報告数ではないが、高知市で3週連続して注意報値を超している。

上位疾患構成図

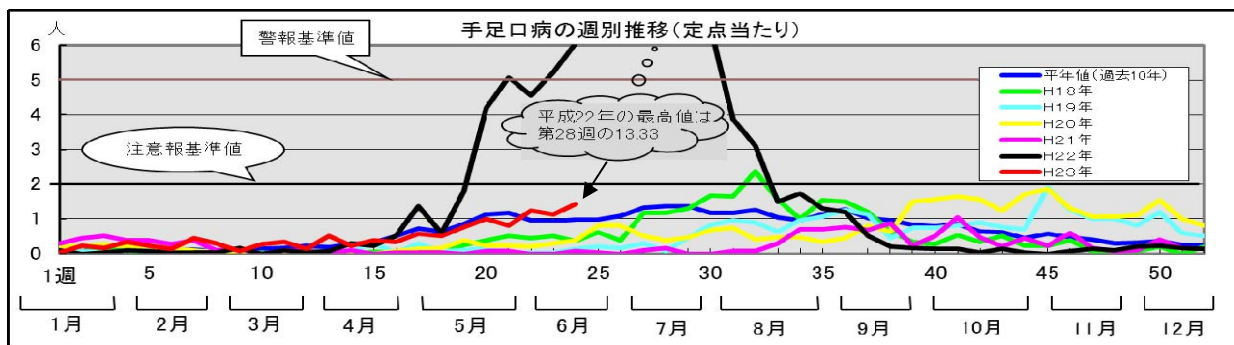


地域別感染症注意報・警報発生状況 第24報（2011年6月13日~2011年6月19日）



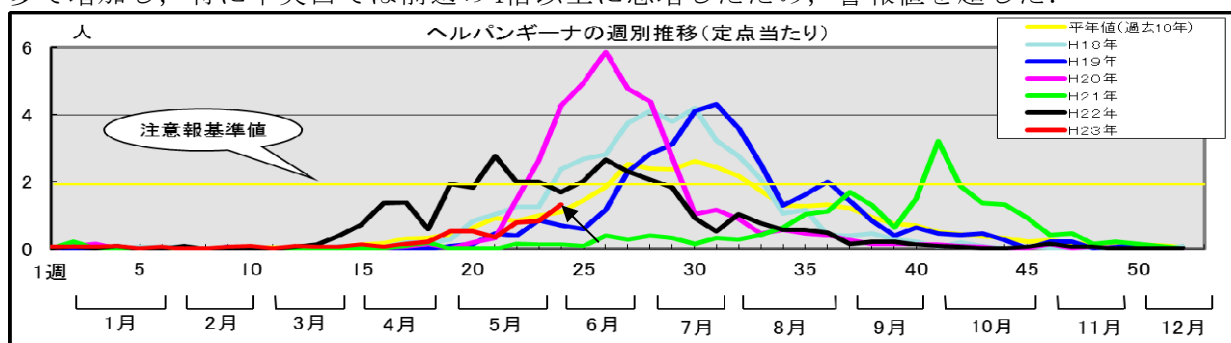
手足口病：今週 1.43 （注意報値：2.00 警報値：5.00）

4月に入った頃（第14週頃）から増加傾向が続いている。年齢別にみると2歳以下の報告が8割弱を占めている。今後も流行のピークに向かって報告数が増加していくと思われるので、推移が注目される。



ヘルパンギーナ：今週 1.33 （注意報値：2.00 警報値：4.00）

5月に入った頃（第18週頃）から増加傾向となっている。地域毎にみると中央西，中央東，幡多で増加し，特に中央西では前週の4倍以上に急増したため，警報値を超した。



検査情報

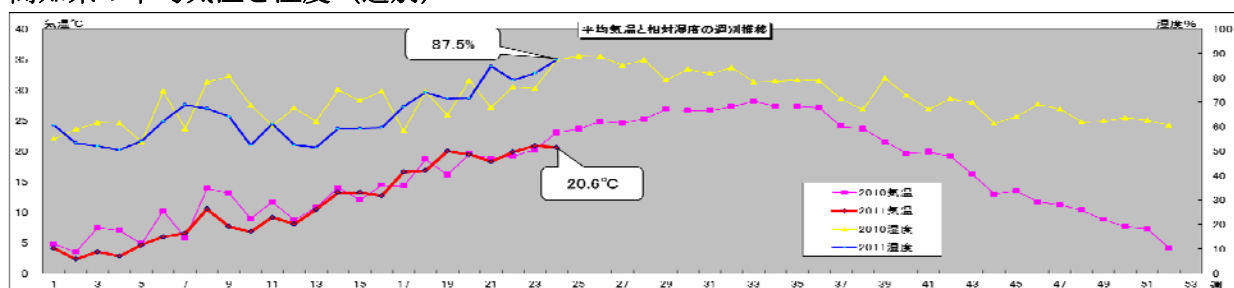
週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
21	アデノウイルス	2歳 男	高幡	Adenovirus 2
21	喘息性気管支炎	2歳 女	中央東	Human metapneumovirus
23	腸炎	1歳 男	高幡	<i>Campylobacter jejuni</i>
23	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7歳 男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 6例（70代男）《幡多》（80代男：3例）《中央東》（30, 80代男）《高知市》（今年70例）

5類感染症：梅毒 1例（90代女）《高知市》（今年3例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《幡多けんみん病院小児科》：アデノウイルス陽性 1例（2歳女）

《さたけ小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 2例（2, 5歳男） マイコプラズマ感染症 1例（2歳女）

高幡：

《もりはた小児科》：インフルエンザの4例はB型陽性，予防接種歴なし

ヘルペス性歯肉口内炎 1例（4歳男） カンピロバクター腸炎 1例（10歳女）

アデノウイルス扁桃炎 2例（2歳男，9歳女）

《大西病院小児科》：インフルエンザの1例はB型陽性

中央西：

《日高クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（7歳男）

扁桃炎（アデノウイルス感染症） 1例（1歳男）

高知市：

《福井小児科・内科》：伝染性紅斑がやや多発している

《けら小児科・アレルギー科》：病原性大腸菌 3例（0-74:11歳男，0-1:2歳女，0-44:9歳女）

カンピロバクター腸炎 2例（8,11歳男）

アデノウイルス陽性 2例（3,4歳男） 帯状疱疹 1例（5歳男）

全国情報第22週（5/30～6/5）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核379例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症38例（有症者27例、うちHUSなし）、腸チフス2例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎1例、チクングニア熱1例、つつが虫病12例、デング熱1例、日本紅斑熱3例、レジオネラ症14例

5類感染症：アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群19例〔AIDS 6例、無症候12例、その他1例〕、ジアルジア症1例、先天性風しん症候群1例、梅毒12例、風しん10例、麻しん13例

報告遅れ：オウム病1例、デング熱1例、日本紅斑熱2例、急性脳炎4例、クリプトスポリジウム症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、風しん6例

◆伝染性紅斑

伝染性紅斑（erythema infectiosum）は4～5歳の幼児を中心に幼児、学童に好発する感染症であり、単鎖DNAウイルスであるヒトパルボウイルスB19（Human parvovirus B19）が本症の病原体である。典型例では両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれることもあるが、本症の周辺には多くの非定型例や不顕性感染例があること、また多彩な臨床像があることなども明らかになってきている。

感染後約1週間で軽い感冒様症状を示す例がみられることがあるが、この時期にウイルス血症を起こしており、ウイルスの体外への排泄量は最も多くなる。本疾患の特徴的な症状は感染後10～20日で出現する両頬の境界鮮明な紅斑であり、続いて腕、脚部にも両側性にレース様の紅斑がみられる。体幹部（胸腹背部）にまでこの発疹が出現する例もある。発熱はあっても軽度である。本疾患の大きな特徴として、発疹出現時期を迎えて伝染性紅斑と臨床的に診断された時点は抗体産生後であり、ウイルス血症はほぼ終息し、既に周囲への感染性は殆どないといわれている。

成人では両頬の蝶形紅斑は少ない。一方、合併症である関節痛・関節炎の頻度は小児では約10%以下といわれているが、成人男性では約30%、成人女性では約60%と高率である。また、妊婦が感染すると、胎児水腫や流産の可能性がある。妊娠前半期の方がより危険性が高いが、後半期にも胎児感染は生じるとの報告もある。なお、先天性風しん症候群のように、妊婦が伝染性紅斑の原因ウイルスであるヒトパルボウイルスB19に感染したことにより、先天奇形をもった児が産出されたとの報告はこれまでにない。その他、溶血性貧血患者が感染した場合の貧血発作（aplastic crisis）を引き起こすことがあり、他にも血小板減少症、顆粒球減少症、血球貪食症候群等の稀ではあるが重篤な合併症が知られている。

感染経路は通常は飛沫感染もしくは接触感染であるが、まれにウイルス血症の時期に採取された血液製剤からの感染の報告がある。本症は紅斑出現の時期には殆ど感染力がないが、反対にウイルス排泄時期には特徴的な症状を呈さないために診断に至らず、実際的な二次感染予防策は存在しない。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて伝染性紅斑をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。伝染性紅斑は例年夏季に報告数が増加し、第26週または第27週前後がそのピークとなることが多い。1987年、1992年、1997年、そして2000年以降では2001年、2007年とほぼ4～6年ごとの周期で患者発生数の増加がみられている。2008～2009年の報告数は減少し、夏季の流行のピークも定かではない状態が続いていたが、その後2010年の報告数は前年よりも増加し、特に秋季以降は例年よりも高い水準となり、2011年に入って現在まで継続している。2011年第22週の伝染性紅斑の定点当たり報告数は0.90（報告数2,818）となり、前週の報告数（定点当たり報告数0.71）よりも増加した。都道府県別では宮崎県（2.61）、山形県（2.10）、栃木県（2.06）、群馬県（1.88）、静岡県（1.86）、佐賀県（1.65）、埼玉県（1.60）の順であり、36都府県で前週の報告数よりも増加がみられており、特に宮崎県、静岡県、群馬県、和歌山県の増加が目立っている。2011年第1～22週までの定点当たり累積報告数は14.35（累積報告数44,972）であり、2000年以降では2007年（定点当たり累積報告数14.71）に次いで多い報告数となっている。年齢群別割合をみると、4～5歳が31.8%と最多であり、次いで6～7歳（25.2%）、2～3歳（16.9%）、8～9歳（13.1%）の順となっており、7歳までで全報告数の75%以上を、9歳以下で90%以上を占めているのは例年と同様である。

伝染性紅斑の報告数は、例年よりも高い水準を保ったまま、間もなく夏季の流行のピークを迎えることとなると推測される。伝染性紅斑は、多彩な臨床像を呈することからも、実際に診断されているのは感染者の中の一部である可能性があり、加えて紅斑や発疹が出現して臨床的に診断が容易になる前に周囲への感染性があることより、その感染対策は極めて困難であると言わざるを得ない。保育園、幼稚園、小学校等の小児の集団生活施設で流行が発生している際には、その流行が収束するまでの間、妊婦等が施設内に立ち入ることを制限することを考慮すべきである。今後とも伝染性紅斑の発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(23週)	高知県(24週末累計) H23/1/3~H23/6/19	
			中央東	高知市	中央西							
内科・小児科	インフルエンザ		1	1		5		7 (0.15)	9 (0.19)	2,615 (0.53)	12,321 (256.69)	
小児科	咽頭結膜熱			2	1			3	6 (0.20)	2,260 (0.72)	154 (5.13)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	10	31	5	6	6	60 (2.00)	61 (2.03)	7,969 (2.54)	1,241 (41.37)	
	感染性胃腸炎	9	18	48	19	5	10	109 (3.63)	152 (5.07)	17,593 (5.61)	5,809 (193.63)	
	水痘	1	1	15	3	1	2	23 (0.77)	41 (1.37)	6,565 (2.09)	1,172 (39.07)	
	手足口病	1	12	20	4	1	5	43 (1.43)	34 (1.13)	5,275 (1.68)	346 (11.53)	
	伝染性紅斑			2	6		1	2	11 (0.37)	11 (0.37)	3,251 (1.04)	190 (6.33)
	突発性発疹	1	2	7	3			1	14 (0.47)	14 (0.47)	1,880 (0.60)	335 (11.17)
	百日咳									103 (0.03)	10 (0.33)	
	ヘルパンギーナ	1	13	11	13			2	40 (1.33)	25 (0.83)	1,762 (0.56)	176 (5.87)
	流行性耳下腺炎				1			2	3 (0.10)	13 (0.43)	2,846 (0.91)	171 (5.70)
	RSウイルス感染症									303 (0.10)	557 (18.57)	
	眼科	急性出血性結膜炎									34 (0.05)	(0.00)
流行性角結膜炎					2			2 (0.67)	1 (0.33)	490 (0.72)	24 (8.00)	
基幹	細菌性髄膜炎									19 (0.04)	2 (0.29)	
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	15 (0.03)	10 (1.43)	
	マイコプラズマ肺炎				3			3 (0.43)	3 (0.43)	271 (0.59)	47 (6.71)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								1 (0.14)	11 (0.02)	3 (0.43)	
計 (小児科定点当たり人数)		15 (7.50)	59 (8.38)	147 (12.88)	48 (16.00)	19 (8.25)	33 (6.60)	321 (10.45)				
前週 (小児科定点当たり人数)		25 (12.50)	56 (8.00)	189 (16.59)	46 (14.93)	21 (10.25)	39 (7.60)		376 (12.22)	53,262	22,568 (595.39)	

定点当たり

第24週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(23週)	
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ		0.09	0.06		1.25		0.15	0.19	0.53	
小児科	咽頭結膜熱			0.18	0.33			0.20	0.33	0.72	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.43	2.82	1.67	3.00	1.20	2.00	2.03	2.54	
	感染性胃腸炎	4.50	2.57	4.36	6.33	2.50	2.00	3.63	5.07	5.61	
	水痘	0.50	0.14	1.36	1.00	0.50	0.40	0.77	1.37	2.09	
	手足口病	0.50	1.71	1.82	1.33	0.50	1.00	1.43	1.13	1.68	
	伝染性紅斑			0.29	0.55		0.50	0.40	0.37	0.37	1.04
	突発性発疹	0.50	0.29	0.64	1.00		0.20	0.47	0.47	0.60	
	百日咳									0.03	
	ヘルパンギーナ	0.50	1.86	1.00	4.33		0.40	1.33	0.83	0.56	
	流行性耳下腺炎				0.09		0.40	0.10	0.43	0.91	
	RSウイルス感染症									0.10	
	眼科	急性出血性結膜炎									0.05
流行性角結膜炎					2.00			0.67	0.33	0.72	
基幹	細菌性髄膜炎									0.04	
	無菌性髄膜炎								0.14	0.03	
	マイコプラズマ肺炎				0.60			0.43	0.43		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.14	0.02	
計 (小児科定点当たり人数)		7.50	8.38	12.88	16.00	8.25	6.60	10.45			
前週 (小児科定点当たり人数)		12.50	8.00	16.59	14.93	10.25	7.60		12.22		

2011年週報推移(定点当たり)

